

校長室だより No 20

## 来年度のカリキュラムについて

2025年 11月27日 柏市立富勢小学校 校長 梅津 健志

学校で勉強する国語や算数などの教科。その年間授業時間数はどのように決まっているのでしょうか。それは、学習の基準となる学習指導要領に標準時数として定められているのです。

その学習指導要領が改訂の時期となり（10年に一度改定されており、現行は平成29年版）その議論の中で「調整授業時数制度（仮称）」の導入が検討されています。つまり、学校や地域の実態に応じて、ある教科の授業時数を増減させ、子供たちに負担なく学べるようにしたり、教員に過度な負担が生じないようにする方策が検討されています。そこで文科省は来年度より先行実施する地域を公募し、そこに柏市教育委員会が手を挙げ参加校を公募しましたので、本校も手を挙げ余裕のある模索をしながら、富勢小学校らしいカリキュラムを創っていきたいと考えております。具体的なカリキュラム構想について後述します。

文科省の取り組みについては次のHPをご覧ください。

[https://www.mext.go.jp/content/20250616-mxt\\_kyoiku01-000043118\\_12.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250616-mxt_kyoiku01-000043118_12.pdf)  
また、<https://project.nikkeibp.co.jp/pc/atcl/19/06/21/00003/111200670/>

このようなことをお伝えすると、保護者の立場で心配になることとして、「授業時間を削った科目は十分に学ぶことができるのか？」という点が一番に挙げられると思います。例えば、5年生の家庭科の調理実習で米を炊いたり、味噌汁を作ったりします。その作り方や栄養面については家庭科で扱うものの、実際の調理は直売所で配布するレシピを作るために、実際に確かめることとして総合的な学習として実施するというような場面が想定されます。つまり、教科と教科を関連させて指導し、一部をカットして他の教科の学習としてプラスして調整していく形です。これならば子どもにとっての学びは変わらないことになります。

授業時数の報告は、文科省に報告する際は年間35週として計算します。しかし実際には年間40週程度の授業日がありますので、計画時数は削減されても実際の指導時数については大きな削減はなく実施できる予定でいますので、それによる未履修や学力への不安は無いと考えていただいてよいです。それ以上に、学習と学習の関連性を高めて、社会つながる本当の学びを作り出して、子どもにとって意味ある学習になるカリキュラムを創っていくことが、本校としての目的となります。具体的に考えていることについては、次号でお伝えします。